

## 編集委員

岡崎敏雄	筑波大学名誉教授
文野峯子	人間環境大学教授
木谷直之	国際交流基金日本語国際センター専任講師
北村武士	国際交流基金日本語国際センター専任講師
清水まさ子	国際交流基金日本語国際センター専任講師
川嶋恵子	国際交流基金関西国際センター日本語教育専門員
登里民子	国際交流基金関西国際センター日本語教育専門員

(※太字は編集委員長)

## 執筆者一覧

### ・国際交流基金本部

職員： 飯澤展明 (総務部事業情報システム特別ユニット長)

### ・国際交流基金日本語国際センター

専任講師： 来嶋洋美 篠原亜紀 柴原智代  
八田直美 羽吹幸

### ・国際交流基金関西国際センター

日本語教育専門員： 登里民子 三浦多佳史

### ・国際交流基金海外拠点

職員： 中島豊 (シドニー日本文化センター)

### ・国際交流基金 (海外派遣) 日本語専門家等 (※所属別五十音順)

鈴木今日子 (北京日本文化センター)  
松浦とも子 (北京日本文化センター)  
柳坪幸佳 (北京日本文化センター)  
齊藤智子 (ジャカルタ日本文化センター)  
松島幸男 (ジャカルタ日本文化センター)  
森美紀 (ジャカルタ日本文化センター)  
山本晃彦 (ジャカルタ日本文化センター)  
プラパー セントーン スック (バンコク日本文化センター)  
青沼国夫 (マニラ日本文化センター)  
鈴木恵理 (マニラ日本文化センター)  
カルメン シータ・ビスカラ (マニラ日本文化センター)  
中込達哉 (マニラ日本文化センター)  
早川直子 (マニラ日本文化センター)  
竹村徳倫 (ニューデリー日本文化センター)  
高崎三千代 (メキシコ日本文化センター)  
片桐準二 (モンゴル・日本人材開発センター)

(※以上、所属先・職名は投稿時点)

## 査読協力者一覧

### <日本語国際センター専任講師>

生田 守	磯村 一弘	王 崇梁	押尾 和美
菊岡 由夏	来嶋 洋美	木田 真理	久保田 美子
長坂 水晶	坪山 由美子	根津 誠	藤長 かおる
古川 嘉子	築島 史恵		

### <関西国際センター日本語教育専門員>

石井 容子	今井 寿枝	岩澤 和宏	亀井 元子
杉本 香	田中 哲哉	西野 藍	廣利 正代
三浦 多佳史	矢澤 理子		

---

## 編集後記

『国際交流基金日本語教育紀要』第10号には計25本の投稿があり、厳正な審査の結果、研究ノート2本、実践報告7本、報告1本、計10本が採用されました。

投稿された25本のうち、15本が実践報告でした。編集委員会では「現場の実情に即した報告が多く非常に興味深い」「国内では得られない体験や知見を共有でき意義深い」など、投稿論文の内容の多様性、可能性、発展性に関するコメントが多く出されました。

国際交流基金の「2012年度日本語教育機関調査」によれば、世界の136の国や地域の16,046機関で、63,805人の教師が日本語を教え、3,985,669人の学習者が学んでいます。この多くの現場で、実にさまざまな教育が実践されていることは、容易に想像できます。では、私たちはその海外の日本語教育現場でどのような問題が起り、またどのような工夫や挑戦がなされているのか、十分な知識を持っているでしょうか。本紀要に掲載された10本の論文は、私たちが普段なかなか知ることができない教育現場での実践について、非常に貴重で示唆に富んだ情報や考察を伝えてくれます。

現場から乖離することなく丁寧に実践を伝えるためには、その現場の状況をわかりやすく説明することが肝要です。執筆者を含めその現場のことをよく知る人には当然の情報であっても、多くの読者にとっては、それは新しく、時には複雑なものであるかもしれません。研究課題や報告対象の背景をわかりやすく説明し、その実践や調査がなぜ必要なのかを明記し、どうしてそう考えられるのか、考察や結論の根拠を明らかにすることが求められます。今回、惜しくも採用に至らなかった論文や報告は、その点が今一つ充分ではなかったということだと思います。

『国際交流基金日本語教育紀要』が海外の日本語教育に興味関心を持つ多くの読者にとって、「現場に即した」、丁寧に示唆に富む内容を伝え続けられるよう、今後も皆さんとともに努力してまいりたいと思います。

木谷 直之（『国際交流基金日本語教育紀要』編集委員長）